

開業獣医師の先生方への SFTS 発症動物の診断・治療上の注意と依頼

飼育猫(室内・野外両飼育)にマダニ媒介性の重症熱性血小板減少症候群ウイルス(Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome Virus)感染による重症例(発熱、白血球減少、血小板減少)が観察されました。血液中および糞便中に感染性ウイルスが検出されております。これら分泌物を介したヒトへの感染も否定できません。発生状況を調べる必要があります。以下の項目にすべて該当する症例に遭遇した場合、ご連絡(血清、口腔・肛門拭い液の検査)いただくと幸いです。なお、診断・材料の採集の際には、感染予防対策としてPPE(手袋・防護衣等)を着用し、汚物等を処理する際には次亜塩素酸ナトリウム含有消毒剤による処理やオートクレーブなどの加熱滅菌処理を行って下さい(厚生労働省 健感発0724 第1号参照)。

連絡先: 前田健(山口大学共同獣医学部微生物学教授、メール: kmaeda@yamaguchi-u.ac.jp)
または(森川 茂: 国立感染症研究所獣医科学部長、メール: morikawa@nih.go.jp)

1) SFTS 検査を行う必要がある動物:

発熱(39℃以上)

白血球減少症(5000/ μl 以下)

血小板減少症(10x10⁴/ μl 以下)

入院を要するほど重症である(消化器症状、自力採餌困難等)

類似症状を呈する可能性のある既存のウイルス(パルボウイルスなど)の感染が否定されている

2) 日常的な対策:

猫の飼育者に対するダニの忌避剤投与の指導の徹底

猫の重症例に関してはPPE(手袋・防護衣等)の着用

汚物、排泄物の処理は次亜塩素酸ナトリウム含有消毒薬での消毒またはオートクレーブ

3) ネコの SFTS の初症例の症状、検査所見等:

2歳、雑種猫、不妊手術済みメス

体温: 39.5℃(第1病日)

自力採餌不能(第1-11病日)

白血球: 4200/ μl (第1病日)

血小板: 0x10⁴/ μl (第1病日)、0.4x10⁴/ μl (第3病日)

肝酵素上昇等